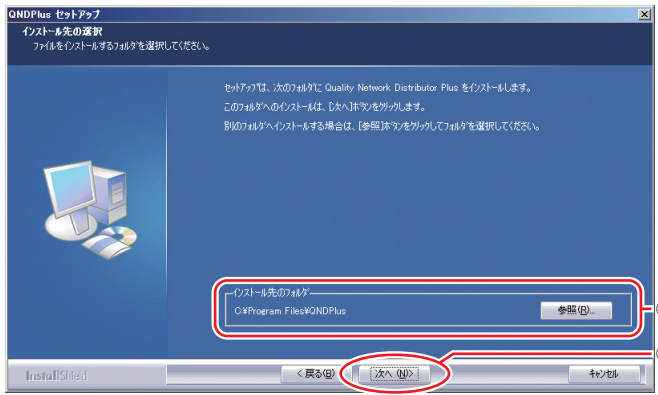


QND Plus Ver.9.5 正誤表

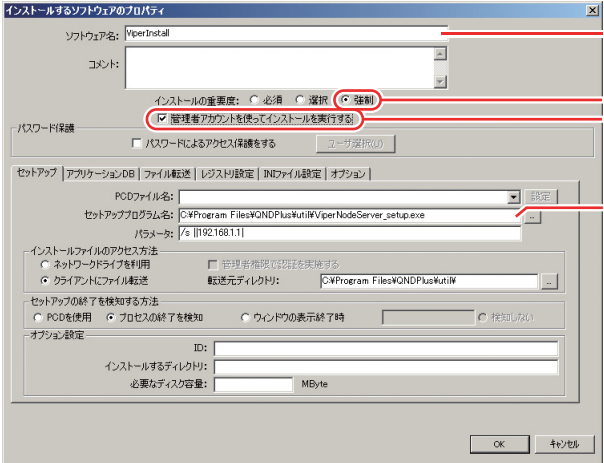

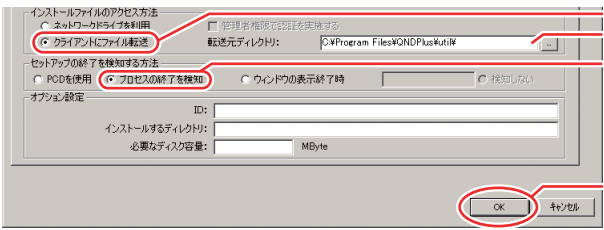
2009年3月13日 クオリティ株式会社

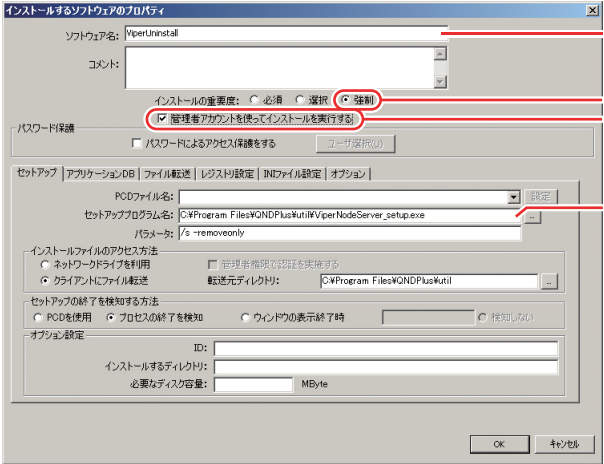
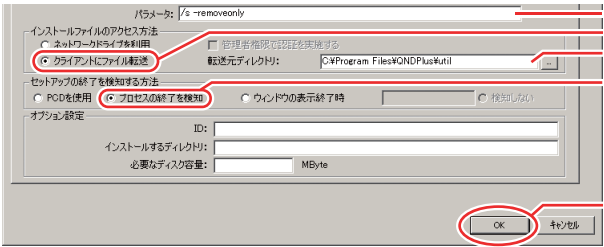




マニュアルの内容に誤り、追記事項があります。下記、正誤対象表をご確認ください。

■ 追補マニュアル

ページ	見出し	誤		正
New12	2-1. QNDサーバ	右の記述を追記	→	QNDサーバをインストールするPCには、.NET Framework2.0以上が必要です。
New13	2-2. Viperコンソール	右の記述を追記	→	ViperコンソールをインストールするPCには、.NET Framework2.0以上が必要です。
21	3-2. コンソールのインストール 手順6	☑「機能の選択」が表示されます。	→	☑「インストール先の選択」が表示されます。
ページ	見出し	正		
22	3-2. コンソールのインストール 手順7	<p>以下の手順を追加してください。</p> <p>7 コンソールのインストール先を確認する</p> <p>① コンソールのインストール先を変更する場合は、[参照(R)...] ボタンをクリックしてインストール先を選択します。</p> <p>② [次へ(N)>] ボタンをクリックします。</p> <p>☑「機能の選択」が表示されます。</p>  <p>なお、7以降の手順番号がずれ、次のように変更になります。</p> <p>7 インストールする機能を選択する → 8 インストールする機能を選択する</p> <p>8 ウィザードを終了する → 9 ウィザードを終了する</p>		
ページ	見出し	誤		正
New23	3-2. コンソールのインストール MEMO内	コンソールにアクセスするユーザの登録について→『導入編』「III 5. サーバアクセス」	→	コンソールにアクセスするユーザの登録について→『リファレンス』「III 5. サーバアクセス」
New31	4-1. バージョンアップについて	右の記述を追記	→	なお、QNDサーバをバージョンアップするPC、およびコンソールをバージョンアップしてViperコンソールを新規インストールするPCには、.NET Framework2.0以上がインストールされている必要があります。

ページ	見出し	誤		正
31	バージョンアップ経路 表内「QND Ver. 8.7 SP2 以前」のバージョンアップ 経路	⇒Ver. 8.7 SP2⇒Ver. 9.1 SP1 ⇒Ver. 9.4 SP1⇒Ver. 9.5	→	⇒Ver. 8.7 SP2⇒Ver. 9.1 SP1 ⇒Ver. 9.5
31	バージョンアップ経路 表内「QND Ver. 9.1以降」 のバージョンアップ経路	⇒Ver. 9.4 SP1⇒Ver. 9.5	→	⇒Ver. 9.5
42	データのバックアップ	コンソールのインストールディ レクトリをコピーし、他の場所 へ退避させます。インストール ディレクトリがデフォルトの場 合は、“C:\Program Files\QND Plus”です。 インストール先を変更している 場合は、変更後のディレクトリ をバックアップしてください。	→	コンソールのインストールディ レクトリをコピーし、他の場所へ退 避させます。インストールディレ クトリがデフォルトの場合は、 “C:\Program Files\QNDPlus”です。 インストール先を変更している場 合は、変更後のディレクトリを バックアップしてください。 また、NetSkipperコンソールのイ ンストールディレクトリもコピー し、他の場所へ退避させます。イ ンストールディレクトリは、 “(Windowsディレクトリ) \ApIn Serv\NetSkipper”です。
44	バージョンアップ 手順9	9 マスターサーバのインストー ル先を確認する	→	9 コンソールのインストール先を 確認する
New61	5-4. Windows ファイア ウォール設定変更プログ ラム 表内「項番」の②	引数 “/VP:xxx” の追加 “/VP:xxx” は、Viperノードサー バが使用するポートをカスタマ イズしている場合に使用する。 “xxx” の部分に入力したポート 番号が、Viper用として例外登録 される	→	引数を指定しないで実行した場合、 または “/APP”、“/QND”、“/QNDAPP” の引数追加で実行した場合、 “(Viperノードサーバのインストー ルディレクトリ) \Viper\Viper NodeServer\ViperNodeServer.exe” が例外アプリケーションとして登 録される。ただし、実行するPCに Viperノードサーバがインストール されている必要がある
New62	5-4. Windows ファイア ウォール設定変更プログ ラム MEMO「Viperノードサー バについて」	右の記述を追記	→	Windows ファイアウォール設定変 更プログラムを利用して設定する 場合は、必ずViperノードサーバを インストールしたあとでプログラ ムを実行してください。インス トールしていない場合は、例外登 録されません。
New62	5-4. Windows ファイア ウォール設定変更プログ ラム 表内「引数」/QNDの実行 結果	・Viperノードサーバ用ポート (TCP:27800)、snmp (UDP 161) の例外登録	→	・Viperノードサーバ (ViperNode Server.exe)、snmp (UDP 161) の 例外登録
New62	5-4. Windows ファイア ウォール設定変更プログ ラム 表内「引数」/QNDAPPの 実行結果	・Viperノードサーバ用ポート (TCP:27800)、snmp (UDP 161) の例外登録	→	・Viperノードサーバ (ViperNode Server.exe)、snmp (UDP 161) の 例外登録
New62	5-4. Windows ファイア ウォール設定変更プログ ラム 表内「引数」/VP:xxx	/VP:xxx	→	<削除>
New64	5-4. Windows ファイア ウォール設定変更プログ ラム 表下説明	*1 “/APP”、“/QND”、“/QNDAPP”、 “/VP:xxx”、“/RCTCP:xxx”、 “/RCUDP:xxx” のいずれかと 併用する必要があります。	→	*1 “/APP”、“/QND”、“/QNDAPP”、 “/RCTCP:xxx”、“/RCUDP:xxx” のいずれかと併用する必要が あります。

ページ	見出し	正	
88	Viperノードサーバをインストールする 手順3 ③以降	<p>次の④と⑩の手順を追加してください。 なお、ここでは、手順のみ記載しています。補足、MEMO等の詳細については、マニュアルをご確認ください。</p> <p>③ [ソフトウェア名:] 欄に、ソフトウェア名を入力します。 ここでは、“ViperInstall”と入力します。</p> <p>④ [インストールの重要度:] で、[強制] をクリックしてオンにします。</p> <p>⑤ [管理者アカウントを使ってインストールを実行する] をクリックしてチェックを入れます。</p> <p>⑥ [セットアッププログラム名:] 欄に、ViperNodeServer_setup.exe の格納場所を入力します。</p>  <p>⑦ [パラメータ:] 欄に、インストールパラメータを入力します。</p>  <p>⑧ [インストールファイルのアクセス方法] で [クライアントにファイル転送] をクリックしてオンにします。</p> <p>⑨ [転送元ディレクトリ:] 欄に転送元ディレクトリを入力します。</p> <p>⑩ [セットアップの終了を検知する方法] で、[プロセスの終了を検知] をクリックしてオンにします。</p> <p>⑪ [OK] ボタンをクリックします。</p> 	
ページ	見出し	誤	正
New89	Viperノードサーバをインストールする 手順5	タスクの実行について→『運用編』「I 7. タスクの実行について」	→ タスクの実行について→『運用編』「I 7. タスク実行について」
100	QPオプションをインストールするホストを指定する 手順1	1. [セグメント] タブを表示させる	→ 1. [未知のホスト] タブを表示させる

ページ	見出し	正	
108	Viperノードサーバをアンインストールする手順3 ③以降	<p>次の④と⑩の手順を追加してください。 なお、ここでは、手順のみ記載しています。補足、MEMO等の詳細については、マニュアルをご確認ください。</p> <p>③ [ソフトウェア名:] 欄に、ソフトウェア名を入力します。 ここでは、“ViperUninstall”と入力します。</p> <p>④ [インストールの重要度:] で、[強制] をクリックしてオンにします。</p> <p>⑤ [管理者アカウントを使ってインストールを実行する] をクリックしてチェックを入れます。</p> <p>⑥ [セットアッププログラム名:] 欄に、ViperNodeServer_setup.exeの格納場所を入力します。</p>  <p>⑦ [パラメータ:] 欄に、“/s -removeonly”と入力します。</p> <p>⑧ [インストールファイルのアクセス方法] で [クライアントにファイル転送] をクリックしてオンにします。</p> <p>⑨ [転送元ディレクトリ:] 欄に転送元ディレクトリを入力します。</p> <p>⑩ [セットアップの終了を検知する方法] で、[プロセスの終了を検知] をクリックしてオンにします。</p> <p>⑪ [OK] ボタンをクリックします。</p> 	
ページ	見出し	誤	正
New 124	未知のホスト 表内「通信状態」の表示内容	開放:  (QNDでは開放のみ)	→ 解放:  (QNDでは解放のみ)
New 125	全てのホスト 表内「通信状態」の表示内容	開放:  (QNDでは開放のみ)	→ 解放:  (QNDでは解放のみ)

■ Windows ファイアウォール設定変更プログラム -利用マニュアル-

ページ	見出し	誤		正
New2	1. はじめに	Windows XP SP2、Windows XP SP3、Windows Vista、Windows Server 2003、Windows Server 2008では、Windows ファイアウォールが自動的に設定され、特定のポートを利用しているアプリケーションの通信がブロックされます。	→	Windows XP SP2、Windows XP SP3、Windows Vista、Windows Server 2008では、Windows ファイアウォールが自動的に設定され、特定のポートを利用しているアプリケーションの通信がブロックされます。
New9	3-1 引数	右の記述を追記	→	QAW/QNDにおいて引数を指定しないで実行した場合、または“/APP”、“/QND”、“QNDAPP”の引数追加で実行した場合にViperノードサーバ (ViperNodeServer.exe) が例外登録されるには、実行するPCにViperノードサーバがインストールされている必要があります。
New10	3-1 引数 表内「引数」/QNDの実行結果	▶ Viperノードサーバ用ポート (TCP:27800)、snmp (UDP 161) の例外登録	→	▶ Viperノードサーバ (ViperNodeServer.exe)、snmp (UDP 161) の例外登録
New10	3-1 引数 表内「引数」/QNDAPPの実行結果	▶ Viperノードサーバ用ポート (TCP:27800)、snmp (UDP 161) の例外登録	→	▶ Viperノードサーバ (ViperNodeServer.exe)、snmp (UDP 161) の例外登録
New10	3-1 引数 表内「引数」/VP:xxx	/VP:xxx	→	<削除>
New11	3-1 引数 表下説明	*1 “/APP”、“/QND”、“/QNDAPP”、“/VP:xxx”、“/RCTCP:xxx”、“/RCUDP:xxx”のいずれかと併用する必要があります。	→	*1 “/APP”、“/QND”、“/QNDAPP”、“/RCTCP:xxx”、“/RCUDP:xxx”のいずれかと併用する必要があります。